

次の文章を読んで、解答用紙の問に答えなさい。

電車に乗っていて、空缶あきかんがあっちへころころ、こっちへころころ転りつづけ、乗客はみな知らん顔をしているという不愉快な体験は、誰もがしている。それどころか缶ジュースをちびちびすす啜りながらマンガ雑誌を読み、やがて平気でその空缶を床に置いて出てゆく若者も後を絶たない。が、それに対しても誰も注意しない。たまに見るに見かねた老人が（わたしもその一人）降りるとき不快そうにそれをつまんで、駅のゴミ箱に捨てるぐらいのものだ。

缶ジュースの自動販売機なんてものが出現する以前は、もちろんこんな問題は生じなかったわけである。が、いつごろからかそれが発明され設置され、街のいたるところに見かけたときから、人はそれなしではいられぬようになったらしい。わたしの住む郊外の街でも駅の周辺に無数の自動販売機が立っていて、見ていると駅からぞろぞろ出て来た乗客の何人かはそこから缶を出し、飲みながら帰ってゆく。自宅までの十分か十五分家へつくまで我慢できないのか、と昔者のわたしなどは歯がゆく思うが、そのわずかの距離でも我慢できないでただちに欲望を充足させるのが、今の日本人なのだ。

しかも彼らは飲み終ると他人の家であろうと何であろうとお構かまいなく、飲み終ったところにそれを捨ててゆく。駅から三、四分のわたしのところなどちようど飲み終る時らしく、塀へいぎわにその捨てられていない日はない。わが住む街横浜市でもさすがにそれを見かねたか、先年「ポイ捨て禁止法案」なるものを作ったが、事態は一向に変らない。

わたしはそこに現代特有の病を見るような気がしている。つまり、まず新しい企業の製品が世に出現し、それが人間の健康や教育のためにいいのか悪いのか、生きるために必要なのかどうか検討することもなく、その新しき、便利さ、快適さ、安易な欲望充足性のゆえに受け入れられ、流行し、誰もがそれにどっぷりつかってしまう。物が先に世に現れ、人は無批判にその流行に従って、それを使うマナーなんてものの生じるひまがないのである。ある日気がついたら、草むらは空缶だらけになってしまっていたというだけだ。

それに対して社会が合意して認める取扱い規準、行動規準が出来上らぬうちに、新しい物だけが先に横行し始め、人の側が事態に追いついていけないということが、いろんな面で起っているのである。